

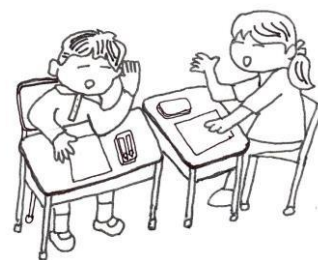
豊かな体験を通した学びフォーラム 2016



横浜の人や自然から学ぶ 横浜の子どもたち

多くの皆様のご参加有難うございました。

開催報告



2016. 1. 16.

13時20分～16時30分

会場

アクセンチュアみなとみらいオフィス

主催

一般社団法人 横浜すばいす
豊かな体験を通した学びフォーラム実行委員会

協力

アクセンチュア株式会社
LOCAL GOOD YOKOHAMA

後援

横浜市政策局

13時20分 開会 総合司会 山本朝彦・梅田比奈子（フォーラム実行委員）

開会の言葉

横浜すばいす代表理事 北村克久 鎌倉女子大学准教授

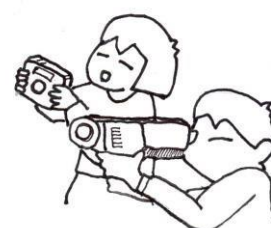
豊かな体験を通した学びフォーラム開催の趣旨

- ・今、横浜の教育（子育て）現場では、幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校が連携して、横浜の財産である地域の自然や社会、人とかかわりながら、体験的な学びを創り出す実践が根付いてきています。
- ・これらの実践は、地域・市民・そして企業の力に支えられてつながり合い、横浜全体が子どもの学びの場としてのフィールドになっています。
- ・横浜の子どもの「豊かな体験を通した学びと育ち」が一層充実し、持続可能な取組となっていくように、園や学校での地域・市民・企業と連携した実践を語り合い、住み暮らすまちの中で、子どもたちに豊かな学びを創造するために私たちができることを考えることを趣旨としてフォーラムを開催します。

ご講演と会場の提供をいただいたアクセンチュア株式会社へ謝辞

- ・本日のフォーラムは、横浜市と業務提携を結ばれたアクセンチュア株式会社みなとみらいオフィスを会場として使用させていただき、工藤卓哉様にご講演いただける運びとなりました。そのことから、子育て・教育の現場を預かる様々なお立場の方々が集う開かれたフォーラムとして開催できることになりました。

アクセンチュア株式会社の皆様に感謝申し上げます。





会場の様子です。
120名の皆さんが
集まりました。



出席された方々 (120名)

市民・NPO・企業 44名 (うち小学生・中学生6名) ・ 学校関係 38名

幼稚園、保育園 11名 ・ 行政 15名 ・ 大学・専門学校 (教員3名・学生9名)

講師の紹介

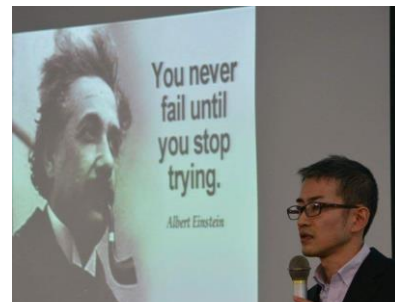
尾上伸一 (フォーラム実行委員)

13時30分～14時 講演

工藤卓哉 アクセンチュアアナリティクス日本統括

工藤卓哉氏プロフィール

慶應義塾大学卒業後、アクセンチュアにおいてコンサルタントとして活躍。コロンビア大学国際公共政策大学院で修士号を取得し、ニューヨーク市で統計ディレクターを務めて、プライマリケア情報化プロジェクトなどの施策に携わる。また、カーネギーメロン工科大学情報技術科学大学院で修士号を取得。2011年から現職となる。データサイエンスの第一人者として、執筆、講演活動にも精力的に取り組んでいる。



講演の概要 「データサイエンスとロボティクスの共通点」

【其1】 試行錯誤が必要 … 課題発見→思考 ⇒ 試行→失敗→試行…成功に向けての挑戦

アイシュタインの言葉 「これまで与えられてきた考え方、同じやり方で、未来を考えようとしても、答えは生み出せない。」「思考、挑戦するのをやめたときに君は失敗する。」

⇒ ロボティクス授業でも全く同じことがあてはまる。壁が見える子どもとその壁を乗り越えようとする子どもの姿を見ることができた。…貴重な時間であった。

【其2】 チームワークが必要 … 自分の保有していない知識を自発的に取りにいく行動が促進される。

ロボティクス授業の特徴 … 唯一の答えがないこと

⇒ 学ぶことと同様に重要なこと=思考・試行すること … チームの中に役割分担や連携が生まれ

【夢】 (ご自身の半生を語られました。データサイエンティストとしての道を渡米して切り拓いてこられた体験、アメリカでの子育ての体験などから) ⇒ 「少しでも多くの子どもに、いろいろな道があつていいんだということ、やりたいことに向けての努力から道が拓けること…そんなことを伝えていきたい。

会場からの質問に答えて

- ・飯島小学校でのロボティクス授業を行って、独力で壁を超えた子どもの姿に感動した。教えていないプログラミングの方法を試行することで身に付けた子どもは、その手法を堂々と発表していた。
- ・自分が夢の実現に向けて、挑戦し続けられるのは、自分を育ててくれた親のおかげ。父親には、挑戦する大切さを 姿勢で示しながら育ててもらえたことを感謝している。

14時10分～14時40分 実践提案

▶ 港北保育園

(保育士・園長)

…

10分

- ・3歳～4歳児が地域の公園で捕まえたアゲハチョウの幼虫を育て羽化をさせた体験を物語にして紙芝居にまとめた実践を紹介

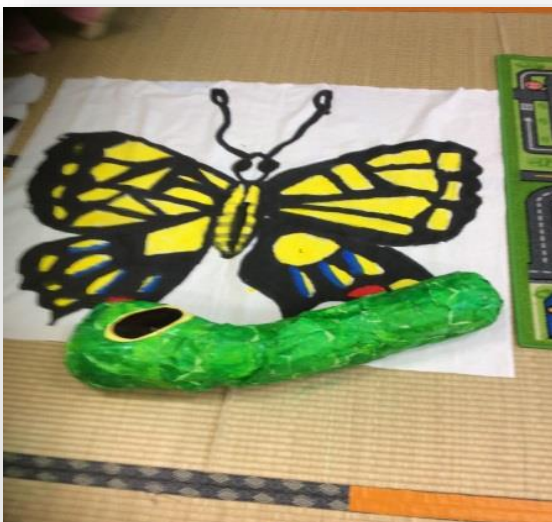
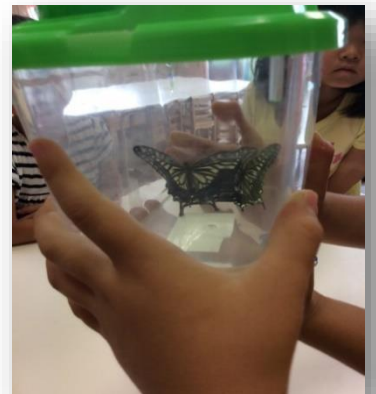


子どもが探究するとき

「アゲハのおはなし」

クラスで生れたアゲハは14頭(匹)。子どもたちが幼虫から育て、成長を見守ってきました。その様子を再現して園庭ではよく「アゲハごっこ」を楽しんでいます。葉裏に卵を産み付けたり、天敵につかまったり、他の虫に助けられ「命の大切さ」を感じるシーンがあったり、とっても面白いおはなしです。

子どもたちは大好きな虫を見つけたり、つかまえたり、育てたりしてさまざまなことを学んでいます。大人も子どもたちの目線になってむし・ムシを感じてください。持続可能な社会の取り組みの第一歩、保育園の実践提案です。



▶ 飯島小学校 （5 年学年主任・児童・校長） … 10 分

- ・地域の農家から学んだ米づくり体験とアクセンチュアの皆さんから教わったロボティクスプログラミング授業の体験を通した学びと手ごたえを子どもの言葉で紹介

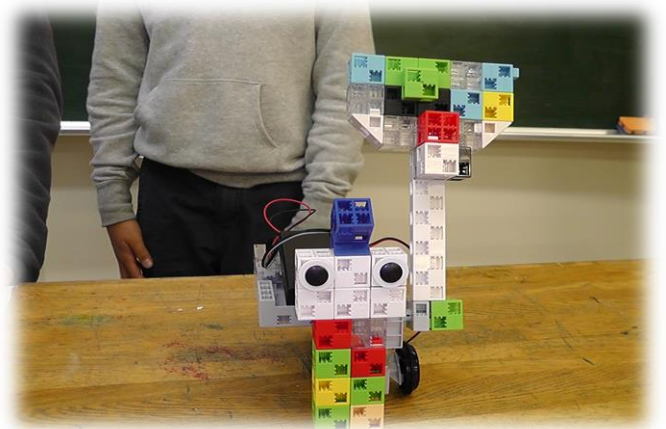


ロボットと共に暮らす未来を想像して

「ロボティクス教室の取組」



飯島小学校5年生は、地域、企業、専門家の方々から、体験を通して学ぶ活動を積み重ねてきました。夏には校庭に芝生を育て、地域の農家の方から稲作を教わりました。実りの秋には、収穫した稲をもって農家を訪ね、米づくりの工夫を様々にお伺いすることができました。元ラグビー日本代表の選手の方から、ラグビーの魅力を全身で感じさせていただき、5年生全員でタグラグビーに夢中になりました。



そして12月。アクセンチュアの皆さん、情報科学専門学校の皆さんから、ロボティクス教室の授業を受けることができました。ロボットと共に暮らす未来を想像しながら、生活に役立つロボットの製作とプログラムに挑戦したのです。とても難しい場面が連続しましたが、最後には全てのグループが、自分たちが考えたロボットとその動きを紹介することができました。「チームで協力すること」「最後まであきらめない心をもつこと」など、たくさん考え、大切なことに気づくことができました。この授業は、きっといつまでも忘れない、貴重な体験となっていくと思いました。

▶ **横浜吉田中学校** (校長) … 10分

- ・外部人材（保護者・地域の方、国際教育ボランティアの方）を活用したキャリア教育の実践。生徒の地域・まちへの意識を高め、思いをもつことをねらいとした実践の紹介。教員の負担減といった課題にも踏み込む。



1 学年 職業体験学習の様子

地域人材の活用

「生徒のまちへの意識を高めるキャリア教育」

アクセンチュアのある、ここ「みなとみらい地区」も学区である横浜吉田中学校は、市内で唯一校名に「横浜」がつく公立中学校です。在籍生徒の約半数が外国籍、外国につながる生徒で構成されています。そのような生徒の状況から、「お互いを思いやり、認め合い、社会に貢献しながら共生できる生徒」を具体的な取組目標に生徒のまちへの意識を高めるキャリア教育に力を入れています。その具体として、1年生では地域の方から教わった木工工作やペンキの塗り方の技術を自らの教育環境に生かす体験学習に取り組んだり、2年生では実際に地域の職業を体験し自らの将来について考える活動に取り組んだりしています。また地元商店街とは密接な関係にあり、商店街祭りには全校生徒に呼びかけ、希望者がボランティアとして参加して運営にかかわらせていただいています。

特に中国籍の生徒が多いことから、学校生活でのコミュニケーションスキルの獲得に向けて、地域のボランティアの方を講師に招いて日本語教室を開いています。このような地域人材を活用した取組は、生徒のまちへの意識を高めることと、多忙を極める学校現場に地域の教育力を導入し、学校職員の生徒に向き合う時間の確保につなげていきたいと考えています。



14時50分～16時20分 ワークショップ

ファシリテーター

宮島真希子コミュニティデザインラボ理事



宮島真希子氏プロフィール

横浜在住 NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ理事&アイデア創発コミュニティ推進機構理事&シャーロックホームズ理事。元・神奈川新聞記者。

みんなでワークショップ

- ・7～8名のグループに分かれたワークショップ … 全10グループ
- ・「園、学校と地域、市民、企業がつながるための次の一歩を踏み出すために」全てのグループがチームになって考え、話し合いました。
- ・基調提案、園と学校の実践発表を受けて、横浜の子どもたちにとって「豊かな体験を通した学びと育ち」が充実していくことが持続可能な取組となっていくための手立てをそれぞれのグループごとに提言していきましました。



ワークショップの様子です。80名ほどの皆さんで熱く語り合いました。



ワークショップの内容

①～④の順に、園・学校と地域がつながり合える未来がみえるワークショップでの協議を進めました。

②水色の付箋

①の障壁になっていること、また現実の課題を書き、カテゴライズする。

①黄色の付箋

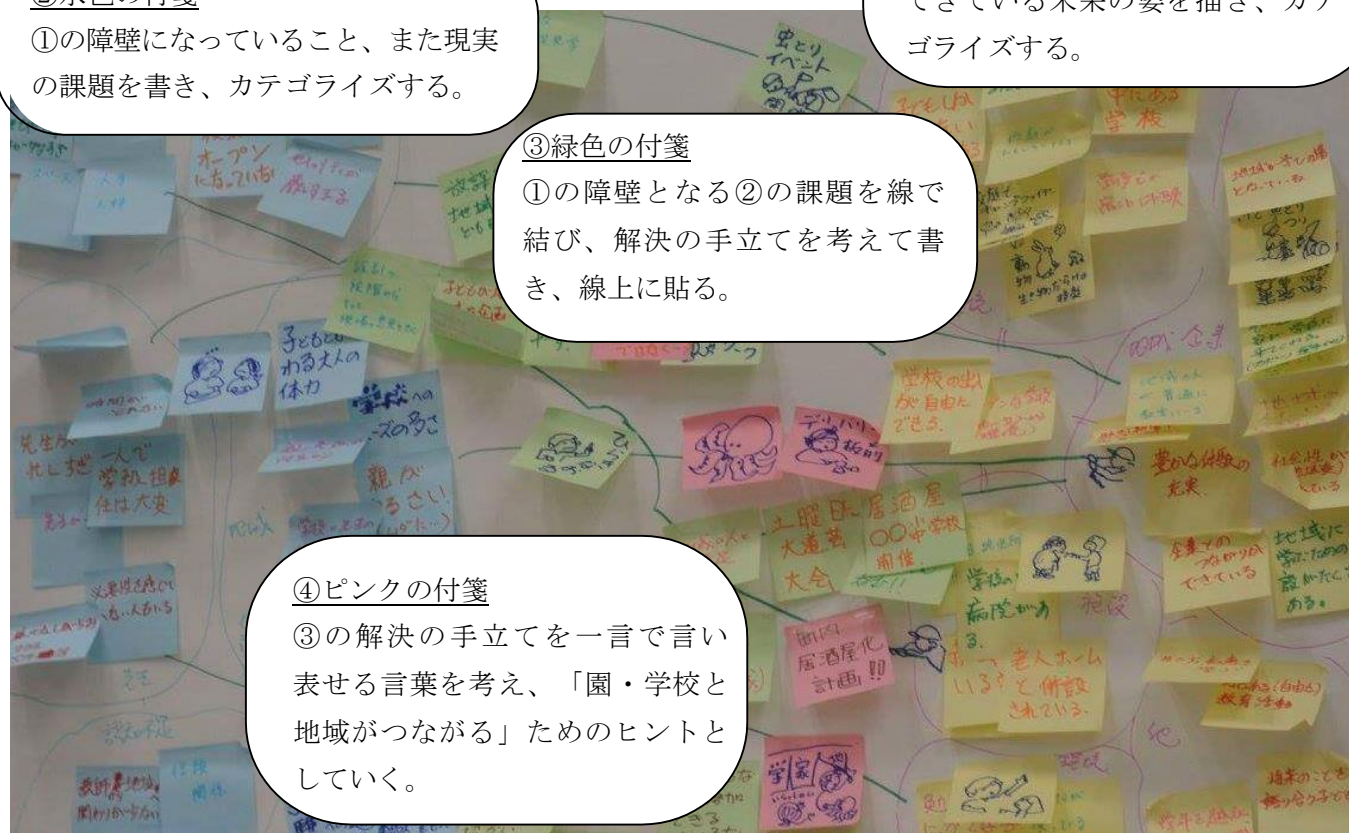
学校・園が、地域と理想的に連携できている未来の姿を描き、カテゴライズする。

③緑色の付箋

①の障壁となる②の課題を線で結び、解決の手立てを考えて書き、線上に貼る。

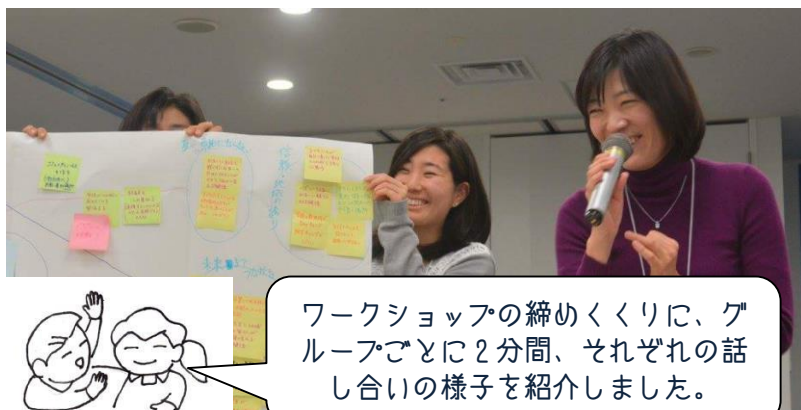
④ピンクの付箋

③の解決の手立てを一言で言い表せる言葉を考え、「園・学校と地域がつながる」ためのヒントとしていく。



園・学校と地域がつながる理想の未来のために そのために考えたキーワード

- 地域・学校コンシェルジュ ●～小を語る会からのノコミュニケーション ●横浜教育基金LONE税
- 地域力“うちでのこずち”作戦 ●ふれ愛広場 タウンフェスティバル ●(愛)爆売りツアー
- 愛デアBANK ●横浜シュウマイ祭 ●地域楽校 ●食飲会議 ●おせっかいプロジェクト
- 突撃!だれでもおとなりさん ●まちの楽校 ●名付けあいさつ ●共育Bar ●地家組織
- 町内居酒屋化計画 ●アドベンチャーSchool ●アピール作戦 ●デジアナ掲示板
- 地域コーディネーター倍増作戦 ●集う・つながる・つむぐ作戦 ●スクールサロン&カフェ
- 地金学空 ●地域の先生宣言 ●スクールファウンディング ●学校に「えんがわ」を
- ハッピーランド みんなで食べようの会 ●地域から学校へ突入 ●学校から地域へ飛び出せ
- 学校はふるさと ●生徒と具体的な目標づくり ●これできるよ宣言プロジェクト
- おせっかいプロジェクト ●地域プライド ●かっこいいところ発見プロジェクト



ワークショップの締めくくりに、グループごとに2分間、それぞれの話し合いの様子を紹介しました。

ワークショップを行った全10グループ





16時30分 閉会

閉会の言葉

「横浜子どもと自然ネットワーク」 杉本政人



家庭では親として、仕事では学校職員として、また長い間、市民団体の一員として、子どもの豊かな体験を通した育ちを見守ってきた。親としては、自分の子どもが優しく育っていることを嬉しく思う毎日であり、そのことが子どもを豊かな体験で育てていく意欲となっている。今日、こうしてつながり合えた皆さんで、これからも横浜の子どもが豊かな自然や人とのふれあいで健やかに育っていく実践を積み重ねていくようにしていきましょう。

次の機会や活動のフィールドで皆さんと再会できることを願っています。

豊かな体験を通した学びフォーラム2016 報告書 編集

(一般社団法人) 横浜すばいす 豊かな体験を通した学び実行委員 尾上 伸一

フォーラムへのご意見、ご感想、ご質問などをお寄せください。

e-mail qktby645@ybb.ne.jp

